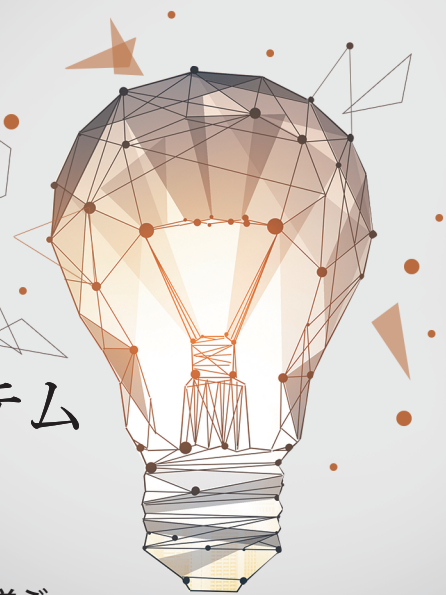


IMSAP スタジオ

2020年秋コース(第2期)

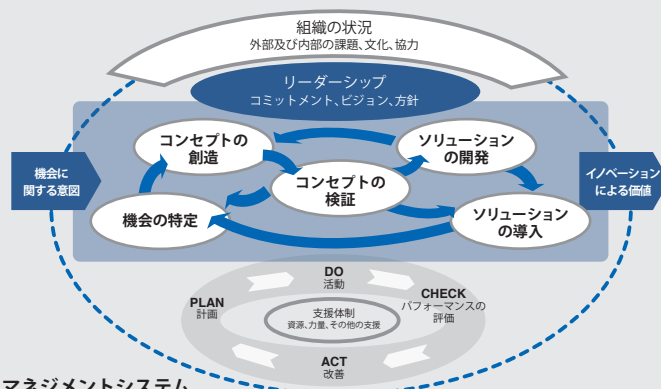
イノベーション・ マネジメントシステム 学習プログラム

ISO56000シリーズと世界の動向に学ぶ



「本業を持つ組織からイノベーションを起こしづらい」のは、世界各国の企業の共通の悩みです。既存事業の慣習や経営の常識が、イノベーション活動を阻害するからです。そのような悩みを抱えた国が59カ国集まり、イノベーション・マネジメントシステム(IMS)の国際規格、ISO56000シリーズが2019年に発行されました。規格づくりに日本を代表して最初から参画している一般社団法人 Japan Innovation Network が提供する、日本初のIMS実践者向けの入門プログラムです。

右図は国際規格(ISO56002)で定められたイノベーション・マネジメントシステム(IMS)の骨格です。IMSとは継続的なイノベーションに求められる「経営のOS」です。オペレーション(モノづくりとカイゼン)に最適化された経営OSのまま、デザイン思考などの「イノベーションのためのアプリ」を導入しても、期待した成果は生まれません。「古い経営OSの刷新」が、今、日本企業に求められています。



ISO56002:イノベーション・マネジメントシステム

スタジオの目的と提供価値

世界最先端のイノベーション・マネジメントシステム(IMS)の知を習得し、実践する覚悟を決める

世界最先端の知を得る

ISO56000シリーズに基づき、IMSの要素とあり方を体系的に習得する

チーム構築

各社3-5名で参加し、IMS導入・実践の中核となるチームを構築する

IMS導入準備

担当役員の合意獲得を含む、IMS導入・実践に向けた道筋を立てる

IMSコミュニティ参画

IMS実践をめざす他企業のリーダーや専門家を含むIMSプロフェッショナルのコミュニティの一員となる

参加をおすすめする企業

- イノベーション・マネジメントシステムの実践を検討している
- 様々なイノベーション手法に取り組んでいるものの、成果が出ず苦労している
- イノベーションの必要性は理解しているが、何から着手すべきか苦慮している
- イノベーション推進人材の育成が急務と考えている
- ISO56002規格を読んでみたものの、その意味合いが十分に理解できない

スタジオの基本構成と価格

IMSAPスタジオは、動画学習、対話セッション、自社議論により構成されます。ISO56002規格の詳細を動画コンテンツで学習し、対話セッションで他社の参加者およびJIN 専門家と議論し、理解を深めます。その後、自社チームで自社の状況把握、IMS導入準備に向けた準備を進めます。



動画学習

- IMSの基本的考え方と国際規格 (ISO56002) の全体像および各章の詳細を20分×9本の動画で学習
- ISO56002 制定に参画した西口 (JIN 代表理事) による解説を動画化
- 参加者は都合の良い時間に視聴
- 出された課題を事前検討して、対話セッションに臨む

※規格を事前に購入し、手元にあることを前提に実施

- ・スタジオには各社5名まで参加いただけます。
- ・スタジオ期間中は、IMS導入準備の目的に限り、動画コンテンツを社内利用いただけます。
(期間後は別途有料)



対話セッション

- 1.5~2.0 時間 × 5 回のオンライン・セッションに複数企業の参加者が集合
 - JIN解説陣との対話や解説を通じ、I 規格の深い理解と自社適用のヒントを得る
 - IMS実践を志す参加企業のネットワークや相互学習の機会が実践に向けた取組を加速
 - 先進企業へオンライン・ベンチマーキング実施
- ※オンライン (zoom) での実施を基本とするが、covid-19 の状況次第では対面の場合を設定



自社議論

- 対話セッションで学んだことをもとに、自社実践に向けた適用のポイントや現状の課題を議論
 - 議論を通じて IMS立上げに向けた自社チームを構築
- ※自社議論のテーマはスタジオにより提供されますが、議論の実施は各社に委ねられる

価格: 100 万円 (消費税別)

参加条件

- 自社のIMS 導入・実践に熱意あるリーダーの存在 (役職は問いません)
- IMS 検討・推進に関わる3-5名による参加 (活動を通じてチームを構築します)
- IMS 導入・推進を支援する役員の存在 (不在の場合、活動期間中に探していただきます)

活動予定 (プログラムは変更されることがあります)

2020 年 12 月 - 2021 年 3 月 (4ヶ月間) で以下を実施します。



動画学習



対話セッション

第1週 第3週	1. IMS と ISO56002 の概要 ・IMS の基本 ・ISO56002 概要 2-3. イノベーション活動 (8 章) ・活動の計画 ・機会の特定 ・コンセプトの創造と検証 ・ソリューションの開発と導入	IMS の重要性と全体像を理解する 国際規格ができたことの意味合いを理解する イノベーション活動のあり方を理解する
第4週 第6週	4. 組織の現状 (4 章) ・組織状況の理解 ・利害関係者のニーズと期待 5. リーダーシップの重要性 (5 章) ・リーダーシップコミットメント ・ビジョンとイノベーション戦略 6. 計画策定 (6 章) ・機会とリスクを明らかにする ・目的と達成に向けた計画の策定	自社の現状を把握する リーダーシップの重要性を理解する イノベーションの目的達成のための計画策定の重要性を理解する
第7週 第9週	7-8. 支援体制の確立 (7 章) ・経営資源の概論と人材 ・時間と知識のマネジメント ・財務とインフラ ・力量のマネジメント ・認知度、コミュニケーションと文書化情報 ・ツール、方法と知財のマネジメント	支援体制の重要性と経営資源の投入のあり方を考える
第10週 第12週	評価と改善 (9/10 章) ・測定 / 分析 / 評価および内部監査 ・マネジメントレビューと改善	イノベーション活動を評価し、改善に繋げていく これまで学んだ内容を踏まえ、改めて IMS の全体像を考える
第13週 第15週	各自で振り返り学習 自社の IMS の計画策定に向けた準備	自社での実践を進めるために

プログラム責任者



紺野 登

一般社団法人
Japan Innovation Network
Chairperson 理事

組織や社会のナレッジ・エコロジー (知の生態学) をテーマに、知識経営、場の経営、ワークプレイス・デザイン、都市開発プロジェクトやデザイン戦略プロジェクトの研究・実務に携わる。多摩大学大学院教授、エコスラボ代表、一般社団法人 Future Center Alliance Japan 代表などを務める。主な著書に『構想力の方法論』(野中郁次郎共著) など。



西口 尚宏

一般社団法人
Japan Innovation Network
代表理事

大企業からイノベーションは興らないという定説を覆す活動に注力。2015 年から ISO56000 シリーズの策定に日本代表のエキスパートとして原案作り携わる。スウェーデン国立研究所 (RISE) 認定イノベーション・マネジメント・プロフェッショナル。日本長期信用銀行、世界銀行グループ、マーサー社ワールドワイドパートナー、産業革新機構執行役員などを経て現職。主な著書に『イノベーターになる』(紺野登共著) など。